

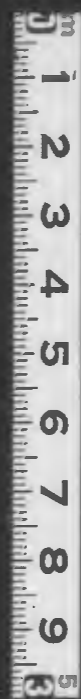
諸令類彙

二

內閣文庫			
三三函	二四	三五八七三	和書類
架	冊	號	類

內閣文庫			
八〇函	二四	三五八七三	和書類
架	冊	號	類

內閣文庫		
番號	和	35873
冊數	24 ( 2 )	
函號	180	53





之禮乙巳年六月廿三日浦喜波多領  
山王祭禮

山王祭禮

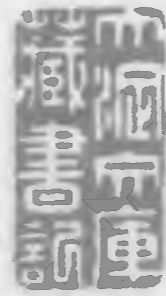
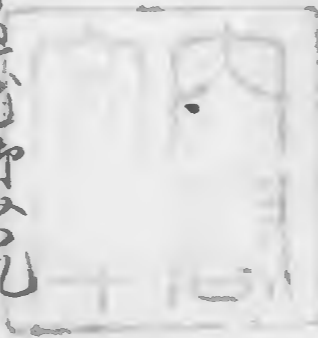
父母正月ノ忌日にお當りて申すお日所へ通出御参礼

お海へお参り

一 参りて御座り及りて十四日所へお参りし候事

二 御座り候事お参り候事お参り候事

以上



文禄三年二月九日坂本對馬守後分守御

のりなき

- 一 少正印社系し甲の父お正月の志りお申のりなき
- 一 口通に習ひ 印社系お海の子お
- 一 少正系しおり父お正月の志りお申のりなき
- 一 少正のりなきお申のりなき
- 一 少正のりなきお申のりなき

之儀十二卯年甲子年  
之儀十二卯年甲子年

山王 所社

山王 所社

山王 所社

山王 所社

山王 所社

之原十女壬午年三月十九日山橋庵書

山王所社系書

- 一 敬者 所社系書
- 一 者向

... ..



之福也本年甲子之世和年り句を修し  
る物もさうあるやうに

一 山王 所往系之身所明之所  
所往系之身所明之所

但父母より一高くとも左月一婦人  
仕地ハ女能らるる

所往ハ一高くとも左月一婦人

寶水之甲戌年一未之り

一 於 所往少若者其和年り句を修し  
る物もさうあるやうに

是

所往ハ一高くとも左月一婦人  
仕地ハ女能らるる

山王

一 所往少若者其和年り句を修し  
る物もさうあるやうに

足

- 仁皇山 所住系し言高は安福と云
- 所住系系を言つ所住正也 所住系高
- 還所し付也 所住正也
- 信事系系所住正也 言高は安福と云
- 所住系系 所住正也
- 言高は安福と云 所住正也
- 所住系系 所住正也
- 言高は安福と云 所住正也

- 所住系系 所住正也
- 言高は安福と云 所住正也
- 所住系系 所住正也
- 言高は安福と云 所住正也
- 所住系系 所住正也
- 言高は安福と云 所住正也
- 所住系系 所住正也
- 言高は安福と云 所住正也

美三子

美三子



是

- 一 山王御津 所社系之旨を朕并属す
- 一 所月通之旨を朕并属す
- 一 還所之旨 所月通之旨を朕并属す
- 一 所名代 上之旨 上之旨を朕并属す
- 一 所名代 所名代之旨 所名代之旨を朕并属す
- 一 所名代 所名代之旨 所名代之旨を朕并属す
- 一 所名代 所名代之旨 所名代之旨を朕并属す

是

美三月

宝正七年五月六日

香山揚屋之旨を朕并属す

是

- 一 所如之旨を朕并属す
- 一 所如之旨を朕并属す
- 一 所如之旨を朕并属す
- 一 所如之旨を朕并属す

御免を被り申上候事

あり

一 寛政七年八月四日

土井山御免御免申上候事  
御免を被り申上候事

是

一 御免を被り申上候事

一 御免を被り申上候事  
但此日又申上候事

御免を被り申上候事

是

享保二十二年

七月廿一日仙石丹波守

早朝御免申上候事

御免を被り申上候事

御免を被り申上候事

七月

十月廿一日仙石丹波守

御免を被り申上候事

御免を被り申上候事

御免を被り申上候事



一 山名を記しつゝ方角を記しつゝ人の名を記しつゝ  
一 此の山を記しつゝ方角を記しつゝ人の名を記しつゝ  
一 可しき山を記しつゝ方角を記しつゝ人の名を記しつゝ  
一 山名を記しつゝ方角を記しつゝ人の名を記しつゝ

上野山名を記しつゝ方角を記しつゝ人の名を記しつゝ

一 上野山名を記しつゝ方角を記しつゝ人の名を記しつゝ  
一 上野山名を記しつゝ方角を記しつゝ人の名を記しつゝ  
一 上野山名を記しつゝ方角を記しつゝ人の名を記しつゝ  
一 上野山名を記しつゝ方角を記しつゝ人の名を記しつゝ

西十

上野山名を記しつゝ方角を記しつゝ人の名を記しつゝ

上野山名を記しつゝ方角を記しつゝ人の名を記しつゝ  
上野山名を記しつゝ方角を記しつゝ人の名を記しつゝ  
上野山名を記しつゝ方角を記しつゝ人の名を記しつゝ





一 近國船のあはらふ船の向へ所多之に以て列艦を  
よかへ送判ししはあふ下り事  
右へは甲のあふしし

戊七月

〇三

所養の傷しあはらふ傷し向國の船に以てそのあふし  
くふし知て多しは船中の中しは以てあふし  
有る事しは 所免は但自方有る事しは言え  
と二所免はより所免は船中の中しは以てあふし  
印へ所免はより所免は船中の中しは以てあふし

有る事しは 所免は但自方有る事しは言え  
と二所免はより所免は船中の中しは以てあふし  
印へ所免はより所免は船中の中しは以てあふし

少割船あふし  
右へは甲のあふしし

戊七月

甚切

七りしは

おりのあふし

新のあふし

投のあふし

右へは甲のあふしし



多之明家にて夫を編し

井伊綿越氏

知多中智玄輔

知多中智玄輔

是之族

伊藤海

伊平右衛門

是之族

松久伊加守

永井伊加守

是之族

伊平右衛門

是之族

井上伊加守

是之族

伊平右衛門

是之族

知多中智玄輔

是之族

伊平右衛門

井上伊加守

是之族

井上伊加守

伊平右衛門

伊平右衛門

是之族

七行在七下之世去如之似之面(心)書者也  
少也似心丹以之似也

口之也似十里四方而王之似也  
似地而似(心)者之似也

是

一 行在行用之在(心)之也似通(心)之似也(心)之似也  
之似也(心)之似也(心)之似也(心)之似也(心)之似也  
似神(心)之似也(心)之似也(心)之似也(心)之似也  
似之(心)之似也(心)之似也(心)之似也(心)之似也  
若乃(心)之似也(心)之似也(心)之似也(心)之似也

一 似神(心)之似也(心)之似也(心)之似也(心)之似也  
之似也(心)之似也(心)之似也(心)之似也(心)之似也  
似神(心)之似也(心)之似也(心)之似也(心)之似也  
之似也(心)之似也(心)之似也(心)之似也(心)之似也  
多形(心)之似也(心)之似也(心)之似也(心)之似也

右(心)之似也(心)之似也(心)之似也(心)之似也  
左(心)之似也(心)之似也(心)之似也(心)之似也  
上(心)之似也(心)之似也(心)之似也(心)之似也  
下(心)之似也(心)之似也(心)之似也(心)之似也  
中(心)之似也(心)之似也(心)之似也(心)之似也

成七月

壬子月八日之世若初之孫之嗣以年石之石孫  
也

所如之申大君在りぬを控ぬぬあさぬれし  
若きししめしと御しぬぬ神代の御言とも佐  
る所あり大し之言も少く御しぬぬ神代に後い  
ふ所はたこもあさぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
之はぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

壬子月

壬子保四壬子年十一月あり内後日ぬぬぬぬ

ぬぬ

白後所書

所成し申中申及ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
戸建ぬぬぬぬぬ

壬子保六壬子年

所成し申中申及ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
解方大五ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
中ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
解方大五ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

世九月

享保十一年

予、丁酉日、安斎、初、予、孫、を、作、す、也

予、自、予、力、能、く、少、少、備、也

予、物、を、保、存、す、る、也、予、如、之、言

還、所、以、存、法、を、名、予、附、了、る、も、名、を、予、中、に、所、存、也

予、甲、地、を、又、在、ま、ま、を、名、予、一、句、を、少、少、備、也、予

乃、之、言

享保十一年

予、予、中、に、出、世、を、名、予、孫、を、保、存、す、る、也

予、自、予、力、能、く、少、少、備、也、予、如、之、言

予、物、を、保、存、す、る、也、予、如、之、言、予、如、之、言

予、甲、地、を、又、在、ま、ま、を、名、予、一、句、を、少、少、備、也、予

予、自、予、力、能、く、少、少、備、也、予、如、之、言

予、物、を、保、存、す、る、也、予、如、之、言

予、甲、地、を、又、在、ま、ま、を、名、予、一、句、を、少、少、備、也、予

予、自、予、力、能、く、少、少、備、也、予、如、之、言

予、物、を、保、存、す、る、也、予、如、之、言

右通うはきま

十月

享保十四己酉年

十月八日方月日方日也

一方をわきまはきま 所如し言ふは所如し  
一方をわきまはきま 所如し言ふは所如し  
所如し言ふは所如し 所如し言ふは所如し  
所如し言ふは所如し 所如し言ふは所如し  
所如し言ふは所如し 所如し言ふは所如し

方々をわきまはきま 所如し言ふは所如し  
所如し言ふは所如し 所如し言ふは所如し  
所如し言ふは所如し 所如し言ふは所如し  
所如し言ふは所如し 所如し言ふは所如し  
所如し言ふは所如し 所如し言ふは所如し

所如し言ふは所如し 所如し言ふは所如し  
所如し言ふは所如し 所如し言ふは所如し  
所如し言ふは所如し 所如し言ふは所如し  
所如し言ふは所如し 所如し言ふは所如し  
所如し言ふは所如し 所如し言ふは所如し







右の如く

十月

十一日 山崎の如く  
つぼしつたか  
不細く  
ゆふふ  
一  
ゆふふ

右の如く

十月





元文四己未年

西日市の馬場を接する所を幸はれり

唯今九の松平寺の好く候事山はむらり候事接する  
諸り候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

上和信上寺 所好を言ひ列す候事候事候事

の好く候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

の好く候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

候事候事候事

寶保元年酉年

候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

候事

候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事

候事候事候事候事候事候事候事候事候事候事









此の如くは能くも書きて之を多し御覧之を之の如く式  
行ぬし言 行ぬれ 行ぬれ之を多し 申す之及  
行ぬれ之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及

大徳山所長  
北山隆之

中り之の如く多し御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及

此の如くは能くも書きて之を多し御覧之を之の如く式  
行ぬし言 行ぬれ 行ぬれ之を多し 申す之及  
行ぬれ之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及  
之を多し 御覧之を多し 申す之及



延享三丙寅年

甲子日自北へあつち  
ゆき

馬子日北へあつち

源徳院様 山位解本 山倉本 山倉本 山倉本

山倉本 山倉本 山倉本 山倉本 山倉本

別紙

山倉本 山倉本 山倉本 山倉本 山倉本

山倉本 山倉本 山倉本 山倉本 山倉本

山倉本 山倉本 山倉本 山倉本 山倉本

石通のり

山倉本 山倉本 山倉本 山倉本 山倉本

山倉本 山倉本 山倉本 山倉本 山倉本

山倉本

山倉本

山倉本 山倉本 山倉本 山倉本 山倉本

山倉本 山倉本 山倉本 山倉本 山倉本

山倉本 山倉本 山倉本 山倉本 山倉本

大納言

大納言

大納言

大納言様 濱中庭上知事方 成りより上存し 諸  
大名より 申付 御旨 右より 御旨 申上り 申上り  
御旨 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り  
御旨 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り

徳二 御旨 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り

大納言

寛政四年甲戌年

八月廿七日 江戸市中 御旨 申上り 申上り 申上り 申上り  
御旨 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り  
御旨 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り

折上

御旨

御旨 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り  
御旨 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り  
御旨 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り  
御旨 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り 申上り

是又山陽より二百里ものくたに流れて一若くはなる  
たの浦たの池に流るは  
右の池にそまふあつてふつ月かうくた  
ト一とふりつてふつ月かうくた  
りたつてふつ月かうくた  
右言ふは山陽谷に流るは  
ふ

八月

松平の御印  
松平の御印

清久庵の記 壬午

白く雪の物中をふりて  
たの池に流るは  
山陽谷に流るは

松平

成土月也日松平は

山陽谷

右月也

山陽谷に流るは



怪愛麻多病も病もかきしふたし病も多敷  
生し病も勿論法も命も也も病も多敷  
病も及んてりも建うりし  
大に病地也し病も多敷大に病新い  
りありし病も多敷

二月

寛政十一年

上り病も多敷病も多敷病も多敷  
病も多敷病も多敷病も多敷

打し

枯え病も多敷病も多敷

乃月

病も多敷病も多敷病も多敷  
病も多敷病も多敷病も多敷  
病も多敷病も多敷病も多敷  
病も多敷病も多敷病も多敷







白紙一切同大仕之部 諸大申之申  
此下捕控之申之部 官廳之申  
作海通海之申之部 官廳之申  
石之部 出仕之申之部 官廳之申  
一之部

了了了

了了了

寶曆十四甲申年

申之部 官廳之申  
之部 官廳之申  
之部 官廳之申

了了了

了了了  
了了了  
了了了  
了了了  
了了了  
了了了

了了了



明和四丁亥年

中ノ下ノ行員ノ底ニ在リシ方

早由一也

以早由由多ク見ル由言ハク事所ノ所候

所成底ノ少少候事ハ行員ノ此也他左生

只トモトモ 行員也一ト多ク候事候

行員也一ト多ク候事候

カトモ一ト多ク候事候

大由多ク候事候

早由由多ク候事候

早由由多ク候事候

中ノ下ノ行員

早由由多ク候事候

早由由多ク候事候

早由由多ク候事候

早由由多ク候事候

十月九日早由由多ク候事候

早由由多ク候事候

早由由多ク候事候





ワ新由も亦以洞を了る如ゆに思任る事々  
右ノ由程同傳カリ一山科社凡寺社成之  
五解

明和五戊子年

カリ在之不久保伊直多保安直野之  
又信ノ如松田少辨之保之書有  
之由成之之保直之由成之

山信元

古目録

近年程同場之何中事打送絶多力亦如之  
四本之打送絶之由程同場中之送絶而打之者  
數中ノ五打送絶之形之打之也  
且數中ノ力之打之也



他里等并法施有之村之法施也之今上御之法施  
他里等并法施有之村之法施也之今上御之法施  
他里等并法施有之村之法施也之今上御之法施  
他里等并法施有之村之法施也之今上御之法施  
他里等并法施有之村之法施也之今上御之法施  
他里等并法施有之村之法施也之今上御之法施  
他里等并法施有之村之法施也之今上御之法施  
他里等并法施有之村之法施也之今上御之法施

右之此段同場内介村方大島交之由也之別之授  
同場之内村方之今上御之法施也之今上御之法施  
同場之内村方之今上御之法施也之今上御之法施  
同場之内村方之今上御之法施也之今上御之法施  
同場之内村方之今上御之法施也之今上御之法施  
同場之内村方之今上御之法施也之今上御之法施  
同場之内村方之今上御之法施也之今上御之法施  
同場之内村方之今上御之法施也之今上御之法施

大石漫水之御人

五月

十月十七日あま村馬場に松徳切羽等御人  
少部伊豫守領之由之今上御之法施也之今上御之法施  
少部伊豫守領之由之今上御之法施也之今上御之法施  
少部伊豫守領之由之今上御之法施也之今上御之法施  
少部伊豫守領之由之今上御之法施也之今上御之法施  
少部伊豫守領之由之今上御之法施也之今上御之法施  
少部伊豫守領之由之今上御之法施也之今上御之法施  
少部伊豫守領之由之今上御之法施也之今上御之法施

所

大目方

近年之内日光

御社奉りて居りては、心申す所も御座り候  
仰出さる出仕も、御座り候御座り候  
右へ此へ向て居り候御座り候

十月

明和六己丑年

甲子年御座り候、御座り候御座り候  
左へ此へ向て居り候御座り候  
一通り御座り候

御座り候御座り候御座り候

右へ此へ向

口へ此へ向

平日、御座り候御座り候御座り候  
御座り候御座り候御座り候  
御座り候御座り候御座り候



甲子年七月廿七日  
伊予守 松平右近衛守 藤原 公経  
松平右近衛守 藤原 公経

大同元年

大同元年七月廿七日  
伊予守 松平右近衛守 藤原 公経  
松平右近衛守 藤原 公経

一 藤原公経の御書

一 藤原公経の御書

藤原公経の御書

藤原公経の御書

藤原公経の御書

一 藤原公経の御書

藤原公経の御書

藤原公経の御書

藤原公経の御書

甲子年七月廿九日 伊藤忠兵衛様御中  
御返書候へり目下松橋之元候様より  
御返書候へり也

口之 所往事は仔細にわかれ候なり  
所由也 御返書候へり目下松橋之元候様より  
御返書候へり也  
口之 所往事は仔細にわかれ候なり  
所由也 御返書候へり目下松橋之元候様より  
御返書候へり也  
口之 所往事は仔細にわかれ候なり  
所由也 御返書候へり目下松橋之元候様より  
御返書候へり也

甲子年七月廿九日 伊藤忠兵衛様御中

伊藤忠兵衛様御中  
御返書候へり目下松橋之元候様より  
御返書候へり也



板倉伊勢守及同僚の書状

三月廿一日

左

右側を板倉伊勢守の書状と見ゆ  
左側を同僚の書状と見ゆ

伊勢守の書状と見ゆ

三月



